

褥瘡対策委員会

褥瘡対策委員長 永田 茂行

褥瘡対策委員会は、外科医師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、看護師の多職種から構成されています。

入院時より褥瘡発生要因を把握し、発生させない事を目標に予防ケアに努めています。発生時は、職種の専門知識を活かしたディスカッションをし、個々の患者に応じた適切な治療・ケアの提供を検討しています。

1、目的

院内の褥瘡対策チームによる、褥瘡の予防およびケアの推進・管理・評価を行う。

2、活動内容

①会議：1回/月、症例検討、学習会

・メンバーのスキルアップのため褥瘡に関する学習会を実施

6月：保湿・皮膚保護について

7月：踵部・頭部の褥瘡予防について

8月：下肢の血行障害による潰瘍や壊疽に対する除圧・ケア方法

9月：緩和ケアと褥瘡

10月：ポジショニングの実際

11月：外用剤とドレッシング剤について

12月：栄養状態と褥瘡の関係

2月：活動報告会

②褥瘡回診：2回/月（第1・3木曜日）

③体圧分散寝具の管理・整備

④入院時、褥瘡対策に関する計画書を作成、その後毎週木曜日、状態変化時に再評価

・生活自立度に合ったマットの選択を行う

⑤全職員を対象とした学習会（外部講師に依頼）

5月：DESIGN-Rについて

1月：VAC療法について

⑥研修の実施

4月：初任者研修

9月：新人研修

今年度の持ち込み褥瘡患者数は、56名、新規褥瘡発生患者数は45名でした。発生率は0.056%です。持ち込み褥瘡の大半は、施設からの持ち込みで、深さが深く、入院中に治癒に至っていないのが現状です。新規褥瘡の大半は深さが浅く、約半数が治癒しています。

褥瘡対策委員会では、今年度初めて活動報告会を行い、分析の結果、褥瘡保有患者の殆どが低アルブミン血症を伴う栄養不良患者ということが分かりました。

来年度はNSTと連携を図り、治癒・改善を目指していこうと思っています。

平成28年度持ち込み・新規・予防患者状況（入院延べ患者数79,824名）

持ち込み	新規	予防	治癒	退院（死亡）
56	45	1277	20	75（26）